

持続可能な観光 マネジメント 報告書



eco guide café





About GSTC

GSTCとは「グローバル・サステナブル・ツーリズム協議会（Global Sustainable Tourism Council）」の略称で、持続可能な観光（サステナブル・ツーリズム）の推進を目的とした国際的な非営利団体です。国連環境計画（UNEP）や国連世界観光機関（UN Tourism）などの支援を受けて設立され、観光業界における「持続可能性の国際基準（グローバル・スタンダード）」を策定・管理する役割を担っています。

About UCSL

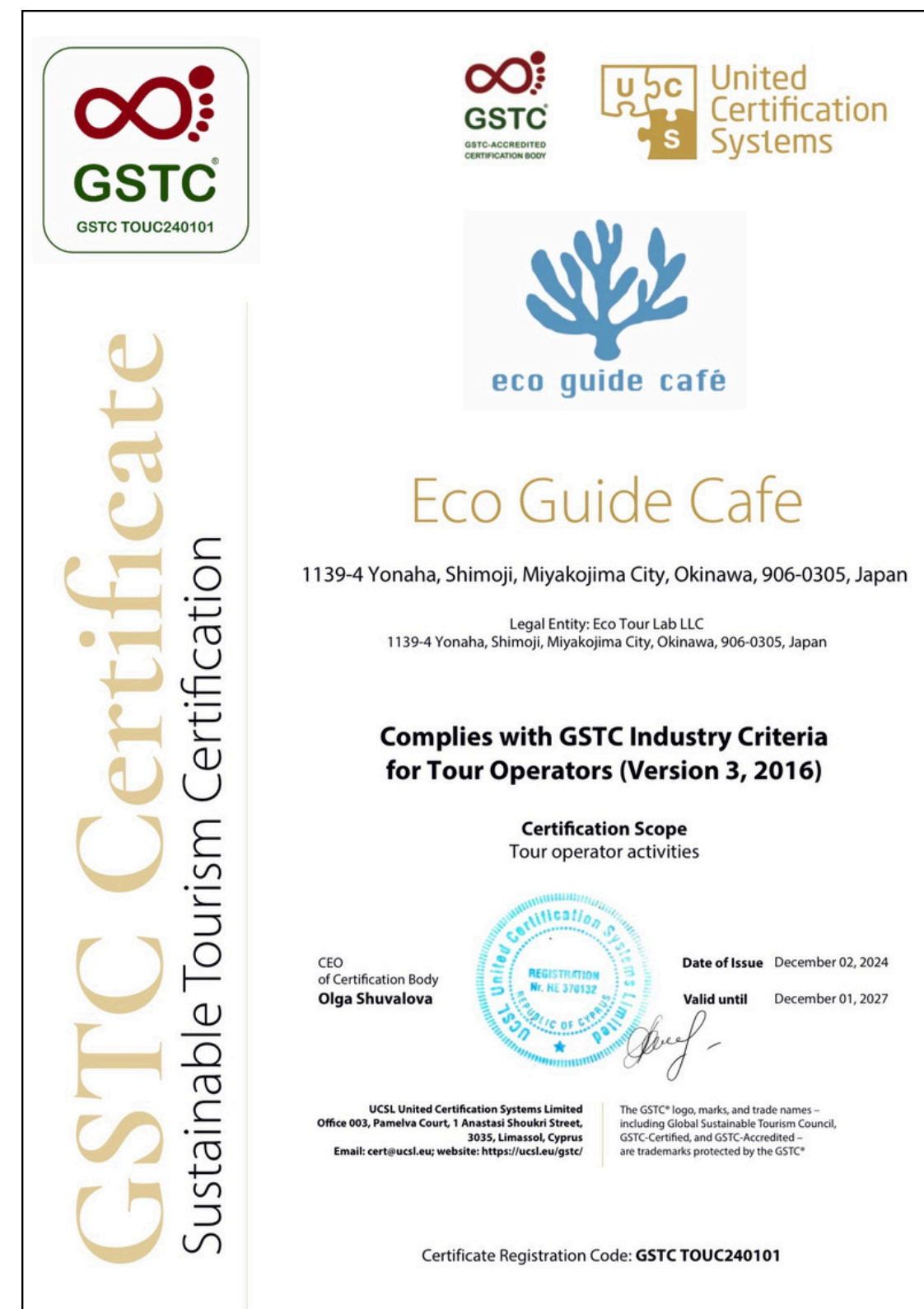
UCSLとは、世界中で活動する独立した第三者認証機関である『United Certification Systems Limited（ユナイテッド・サーティフィケーション・システムズ・リミテッド）』を指します。マンダリン・オリエンタルをはじめとする、日本および世界の主要なラグジュアリーホテルグループがUCSLを通じて認証を取得しています。GSTC（世界持続可能観光協議会）から直接認定を受けている数少ない機関の一つであり、同機関が発行する認証は国際的に高い価値を有しています。

About EcoGuideCafe

観光客が来れば来るほど美しくなる沖縄観光を目標とし、自然環境の保護と観光を両立させるサステナブル・ツーリズム（持続可能な観光）を極めて高いレベルで実践しています。1985年創業、40年間無事故の日本有数のダイビング＆マリンレジャーショップです。

生物多様性アクション大賞（環境大臣賞）、環境省主催エコツーリズム大賞（特別賞）、国際サンゴ礁年オフィシャルサポート企業（環境大臣任命）などを受賞。カーボンオフセット認証、ISO14001、GCN（グローバルコンパクト）加入など、持続可能な世界標準を20年来実施。

宮古島初のノーアンカーブイ提唱実践、ノータッチサンゴマナー啓発指導など、地元観光資源の保全活用などを宮古島市や伊良部漁業協同組合と協働して指針しています。





01.国内観光客

「ノータッチ・サンゴ」を掲げ、環境負荷を抑えたシュノーケリングやクリアカヤックを提供。宮古島の絶景「17END」などで、サンゴを傷つけない技術を学びながら、自然の美しさを体感できるツアーを展開しています。



02. 教育旅行

次世代を担う学生へ、海洋生態系の重要性を説くフィールドワークを実施。単なるレジャーに留まらず、サンゴの保護活動やSDGsの観点から「持続可能な社会とは何か」を肌で感じる探究型プログラムを提供しています。



03. 海外観光客

GSTC基準に準拠した世界レベルのサステナブルな体験を提供。英語対応も備え、自然保護と観光を両立させる「日本の先進的なエコツーリズム」を体感できる旅先として、意識の高い欧米豪などの層から支持されています。

EcoGuideCafe

「観光客が来れば来るほど美しくなる宮古島」と市の連携
エコガイドカフェが提唱するこの理念は、観光が環境を壊す「消費型」から、観光によって環境を再生する**「再生型（リジェネラティブ）」**への転換を意味しています。



宮古島市とのコラボレーション・取り組み

・「宮古島市SDGs推進プラットフォーム」への参画:
市と連携し、サンゴ礁保全のためのガイドライン策定を主導。ショップの活動が市の「千年先の未来へ」つなげる環境保全施策のモデルケースとなっています。



01 ビジョンと歩み

エコガイドカフェは、宮古島の類稀なる海洋資源を守るため、「サンゴを絶対に壊さない」という独自の指導法を確立しました。20年以上にわたり、観光客を消費者に留めるのではなく、海を守る「守り手」へと変えるエコツーリズムを追求してきました。この歩みは、日本のマリンレジャー界におけるサステナブル・ツーリズムの先駆けとなり、世界基準であるGSTC認証の取得へと繋がっています。

02 持続可能なマネジメント報告

2025年度は、持続可能なマネジメントシステム（SMS）に基づき、以下の成果を達成しました。

- ・ 環境負荷の低減：GSTC基準に準拠したツアー運営を徹底し、17END周辺のサンゴ被度の維持・向上に寄与しました。
- ・ 地域社会への還元：地元産品の積極的な活用と、地域住民向けの環境啓発イベントを通じ、地域経済と意識向上に貢献しました。
- ・ 認証の維持：国際認証機関による厳格な監査をクリアし、世界レベルのサービス品質を継続しています。



03 持続可能なマネジメントのロードマップ

2026年は、宮古島を「来れば来るほど美しくなる島」へと進化させるため、以下のロードマップを推進します。

- ・ 再生型観光（リジェネラティブ）の深化：ツアー参加者が直接サンゴ保全に寄与できる仕組みをさらに強化し、観光のポジティブ・インパクトを最大化します。
- ・ デジタルSMSの導入：環境データや社会貢献度を可視化し、透明性の高いサステナビリティ・レポートをリアルタイムで提供します。
- ・ 国際連携の拡大：GSTC認定機関や世界のトップエコツアー団体との連携を深め、宮古島モデルを世界へ発信します。

MIYAKO .Is OKINAWA JAPAN

宮古島は沖縄本島から南西に約300km、羽田から空路で約3時間弱の場所に位置します。サンゴ礁が隆起してできた平坦な島で、川がないため土砂が流れ込まず、「宮古ブルー」と称される世界屈指の透明な海が特徴です。





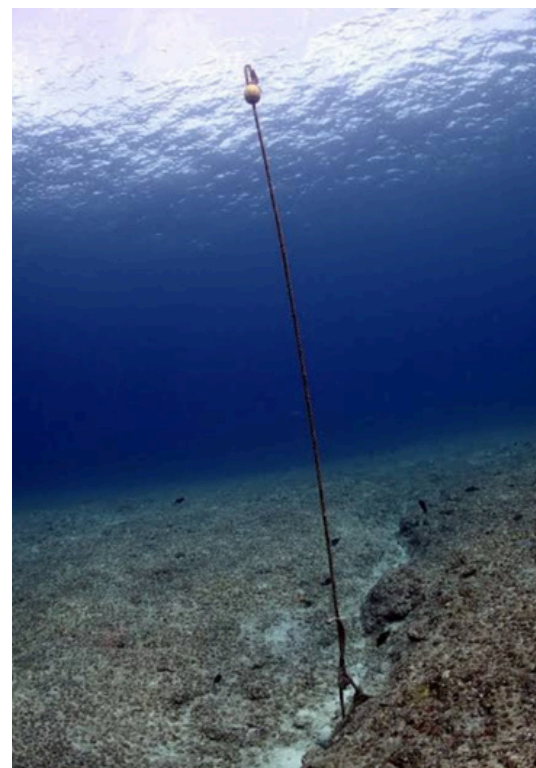
1985-2008 Yasushi. Izawa



1985

創業（40年無事故）

1985年の創業以来「40年間無事故」という高い安全基準を維持しています。参加者の命と宮古島の自然を預かるプロとして、徹底した運行管理と安全教育を積み重ね、信頼のエコツーリズムを築いてきました。



1998

ノーアンカーバイ

アンカーによるサンゴの物理的破壊を防ぐため、1998年に「ノーアンカーバイ」を設置しました。自然を消費せず保護しながら共生する、現在のリジェネラティブ（再生型）なビジネスモデルの原点となる取り組みです。



2001

エコツーリズム国際年

国連が定めたエコツーリズム国際年沖縄の宮古島でエクスカージョンを主催。その主催者宣言として「観光客が来れば来るほど美しくなる宮古島」の実践検証開始を発表した。以降、四半世紀にわたり、沖縄の持続可能観光を推進。



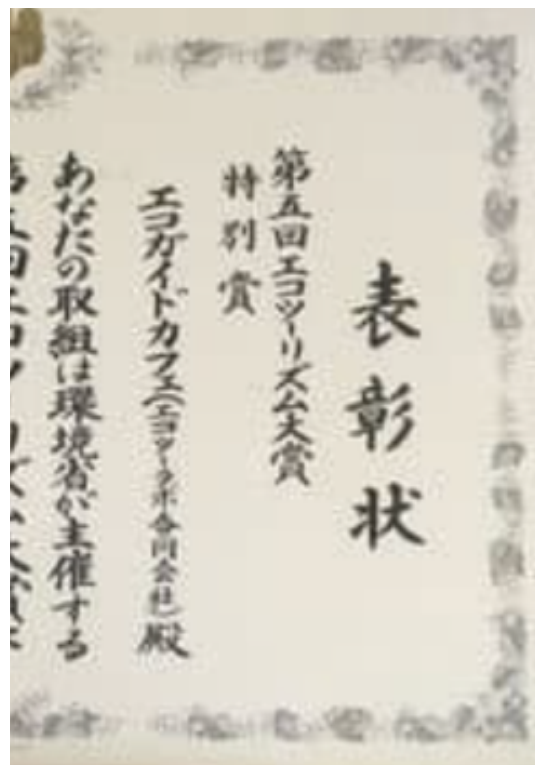
2007

日本サンゴ礁学会

科学的根拠に基づく保全を実践するため、日本サンゴ礁学会へ参画。学術的知見をガイドに反映させ、「ノータッチ・サンゴ」指導法の確立に繋がりました。また、オニヒトデ対策や白化対策などを全国大会口頭発表にて周知した。



2008-2026 Eco Guide Cafe



2010

エコツーリズム大賞

環境省主催エコツーリズム大賞にて特別賞を受賞しました。「ノータッチ・サンゴ」啓蒙活動や、カーボンオフセット、バイオ燃料バスなど、環境保護と観光を両立させる先駆的なビジネスモデルが高く評価されました。



2011

公害等調整委員会

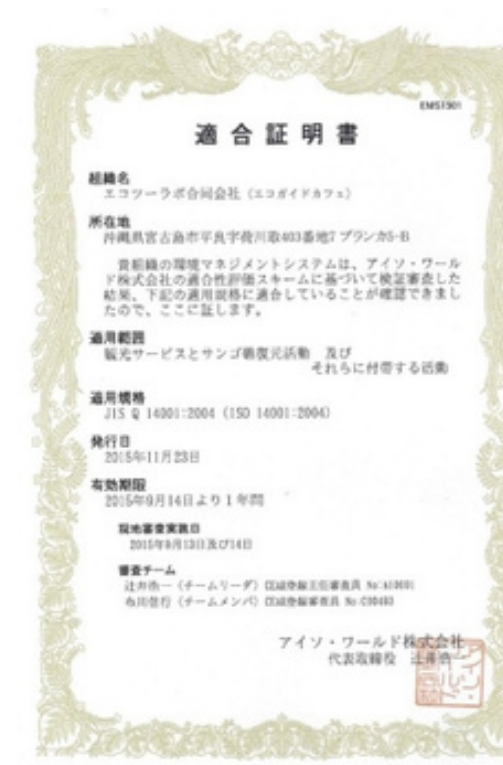
宮古島海中公園建設工事に伴うサンゴ公害を沖縄県公害審査会（調停）、政府公害等調整委員会（原因裁定）を申請実施。結果的に宮古島市が工事によるサンゴ死滅を認め和解。和解条件として、サンゴ再生専門家委員会設置。



2012-14

オニヒトデ捕獲

サンゴを食い荒らすオニヒトデの大発生に対し、保全活動として捕獲作業を積極的に実施しました。年間35,000個体を捕獲し、延長1kmのサンゴ礁保護に貢献しました。豊かな宮古島の海を次世代へ引き継ぐための活動を展開。



2015

ISO14001

環境マネジメントシステムの国際規格「ISO14001」を自己宣言かつ公認審査委員認証スタイルで取得・運用。組織全体で環境負荷の低減に取り組み、継続的な改善サイクルを確立することで、独自のエコツーリズムへと進化させた。



2008-2026 Eco Guide Cafe



2018

国際サンゴ礁年

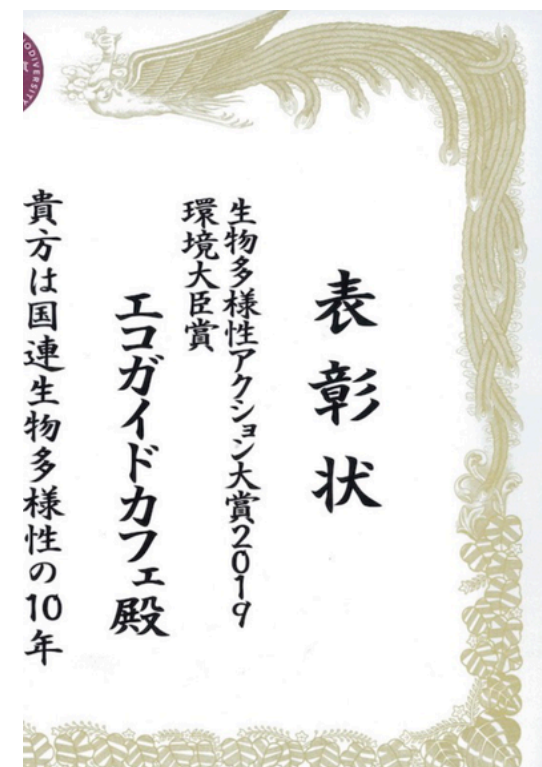
「国際サンゴ礁年2018」の公式サポーター企業として、環境大臣に任命され、サンゴ礁保全の重要性を国内外へ発信。観光客一人ひとりが環境保護の主体となるエコツーリズムを推進し、その成果による環境大臣より感謝状を授与。



2018

人工知能学会全国大会

人工知能学会にて、AI技術を活用したサンゴ礁保全活動を提言。経験則に頼らない科学的なデータ分析と観光を融合させ、サンゴ礁を守るための新たなイノベーションと持続可能なマネジメントの形を世に示し、高評価を得ました。



2019

生物多様性アクション大賞

生物多様性の保護に対する多大な貢献が認められ「生物多様性アクション大賞（環境大臣賞）」を受賞。「ノータッチ・サンゴ」を通じた、宮古島市と協働したインバウンドオーバーツーリズム対策としての観光モデルが高い評価を得た。



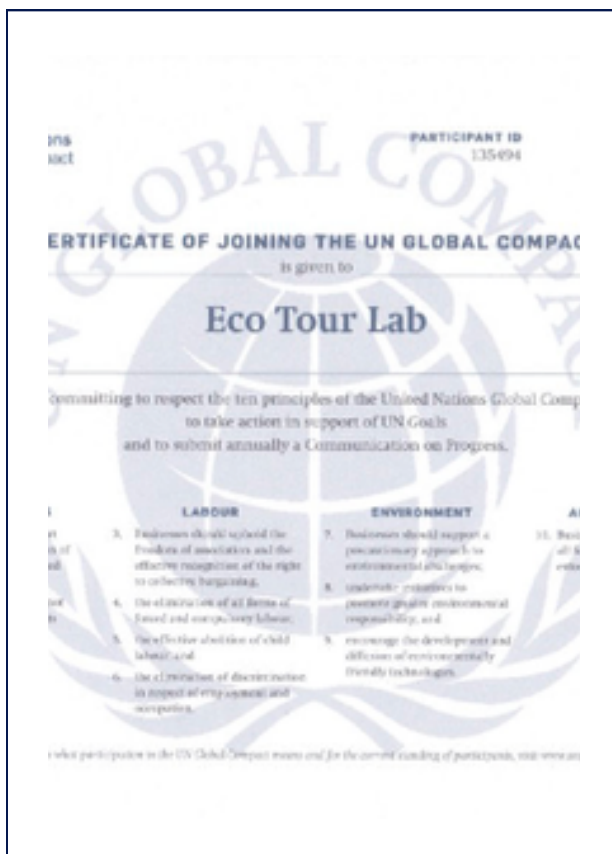
2020

宮古島市シルバースター認証

宮古島市より、エコアイランド宣言を実践推進する企業として「シルバースター」の認証を受けました。地域の観光ブランド向上に寄与し、市が推進する持続可能な観光地づくりの模範として認められました。



2008-2026 Eco Guide Cafe



2022～2024

GCN加入

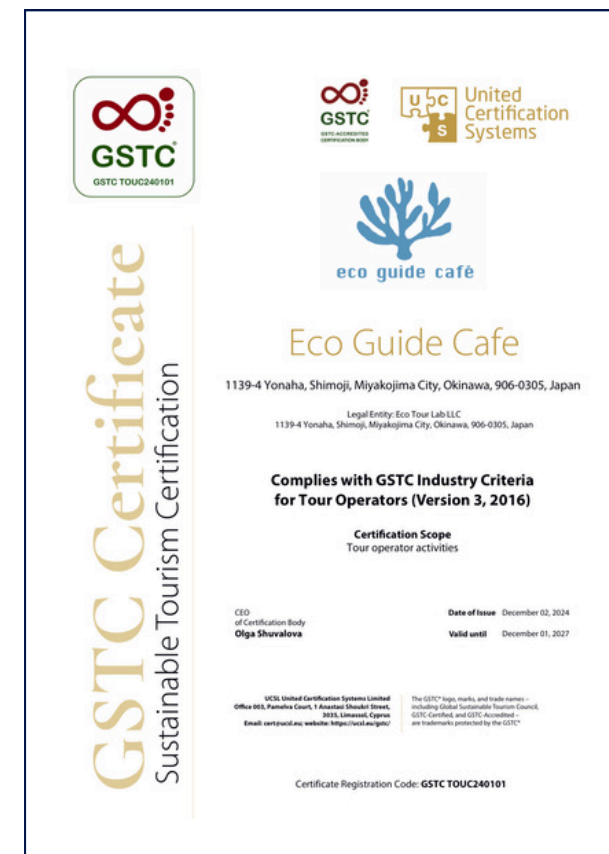
持続可能な観光を推進する国際ネットワーク「GCN」と連携。世界各地の先進事例を宮古島に取り入れ、地域資源を守りながら価値を高める、国際基準のエコツーリズム運営体制をさらに強固なものへと進化させました。



2024

GSTC認証

世界最高峰の持続可能な観光基準「GSTC」の認証を取得しました。環境・社会・経済・文化の4側面で国際基準を満たしていることが認められ、宮古島から世界へ、真のサステナブル体験の提供を開始しました。



2025

GSTC認証（更新）

厳格な年次審査を経て、GSTC認証を更新しました。継続的な改善プロセス（SMS）の運用により、サンゴ礁保全と観光品質の維持・向上を実証。世界に信頼される持続可能な観光事業者としての地位を確立しました。



2026

人工知能学会全国大会

人工知能学会にて、計算能力を維持したまま説明責任を果たせるAI設計原理に関する口頭発表を申請。2026年6月群馬県での全国大会への準備を進めている。論文採択の成否は、3月中旬に決定する予定。



02 SMS Reports2025

D2 汚染の削減

ツアー運営における廃棄物ゼロを目指し、プラスチック削減や環境配慮型洗剤の使用を徹底。サンゴに有害な成分を含まない日焼け止めの推奨など、宮古島の海に「何も残さない」汚染防止管理を継続しています。

D3 生物多様性、生態系、景観の保全

「ノータッチ・サンゴ」指導により、サンゴ礁への物理的接触を回避。科学的モニタリングに基づき、希少な海洋生物の生息地と宮古島特有の美しい景観を守り、生態系の回復力を高める再生型観光を実践しています。

B 地域コミュニティの社会的・経済的な利益の最大化、悪影響の最小化

地元人材の雇用や地域産品の活用を優先し、観光収益を地域へ還元。オーバーツーリズム防止に努め、住民の生活の質を守りながら、観光客が来るほど地域が豊かになる持続可能な経済循環のモデルを構築しています。





GOAL

D2.1 温室効果ガスの排出

事業体の管理下にあるすべての活動において、影響の大きい温室効果ガスの排出量を把握し、可能な限り測定し、排出しない、または最小限に抑える手立てが実施されている。最終的には、すべての排出量を相殺するようにする。

D2.2 交通・輸送手段

事業者は、交通、輸送手段の使用をひかえ、よりクリーンで効率のよい手段をとるよう、利用者、従業員、サプライヤー、自らの事業に積極的に推奨する。

D2.3 廃水

中水を含む廃水が適正に扱われ、地域住民や環境に悪影響をおよぼさないよう再利用するか、安全に放流する。

D2.4 廃棄物

食品廃棄物を含む廃棄物の量を測定し、削減する仕組みを設ける。削減できない廃棄物については、再利用またはリサイクルする仕組みを確立する。最終廃棄処理は、地域住民や環境に悪影響を与えないよう行う。

Target

電気使用量

事務所と寮の節電を行い、電気使用量を削減。

燃料使用量

送迎兼用で使用していたワゴン車を軽ワゴン車に買い換え、燃料使用量を軽減。

排水量（水道量）

ダイビング機材洗浄等において、バスタブを活用し、水道使用量を控えた。

廃棄物

生ゴミはじめ燃焼ゴミなども、事務所および寮双方で削減。

KPI

前年比+9%

前年7,735 kWhから本年8,426kWhに増加。前年比109%。本年のCO₂排出量：5,022kgCO₂e

前年比-16%

前年5,645 Lから本年4,751 Lに削減。前年比84%。本年のCO₂排出量：11,022kgCO₂e

前年比+10%

前年445 Lから本年491 Lに増加。前年比110%。

前年比+5%

前年168 Lから本年176 Lに増加。前年比105%。



GOAL

D3.1.生物多様性の保全

事業体は、自らの敷地と施設の適正な管理を含め生物多様性の保全を支援し、貢献している。とくに、自然保護地域、生物多様性価値の高い地域などでは、注意をはらう。自然生態系へのいかなる影響も最小限にし、再生させる、または保全管理に資する補償を行う。

D3.3 自然地域への訪問

事業体は、自然地域への訪問による悪影響を最小限に抑え、来訪者の満足度を最大化するための管理と集客に関する適切なガイドラインに従っている。

D3.4 野生生物との接触

野生生物と関わる際は、負の影響をおよぼさないように干渉せず、責任をもって対応し、野生生物に対する累積的な影響を考慮に入れた上で、野生生物の生存能力や個体群の行動に悪影響を与えない。

D3.6 野生生物種の採集および交易

国内法および国際法に基づき運用が持続可能であると保証され、規制された一部の活動を除き、野生生物種を採集、消費的活用、展示、販売、または交易の対象としない。

Target

ビジター啓発指導

下地島カヤッファビーチにおいて、全訪問者を対象にして、ノータッチサンゴマナー啓発および管理指導を実施。

マンツーマン指導

シュノーケリング中のノータッチサンゴ。体験ダイビング中はマンツーマンガイドでボータッチさんごを厳守。

ノータッチオペレーション

シュノーケリングおよびスキンドайビングにおいて、ノータッチウミガメガイドラインを厳守かつウミガメ生態などを教示。

サンゴ養殖

沖縄県からサンゴ採捕許可を得て、サンゴ養殖（自然海面利用）を実施し、サンゴ再生資源を育成。

KPI

啓発人数

ノータッチサンゴマナー看板を設置し、全訪問者に周知かつ非履行者に対する啓発指導。
カヤッファ訪問人数：約4万人

指導率

100%

達成率

サンゴ礁：95%
ウミガメ：100%

成長状況

2024年に白化が進んだが、2025年は養殖場サンゴは全体的に回復傾向にある。

02 SMS Report 2025



GOAL

B1. 地域支援 ①

事業体は、インフラ整備と地域社会開発の構想を積極的に支援している。たとえば、教育、訓練、保健・衛生、気候変動に関する事業など。

B3 地元での購入

事業体がサービスの利用や物資の購入をする際は、品質を満たし提供が可能なかぎり、地域内やフェア・トレードのサプライヤーを優先する。

B4 地元事業者育成

事業体は、地元の中小規模の事業者がその土地の自然、歴史や文化に根ざした持続可能な商品やサービスを開発し、提供できるよう支援する。

B6 機会均等

事業体は、性別、人種、宗教、障がい等で差別することなく、管理職を含めた雇用機会を均等に与える。

Target

教育支援

宝塚医療大学宮古島分校の非常勤講師、地元中学等への出前授業を実施。全国の中高校を対象に沖縄修学旅行事前学習講話

地元購入

地元で調達可能なものは、地元から購入。また、ダイビング機材等においても、地元事業者を通じて購入する。

伊良部漁協

伊良部漁協の代表監事を20年近く務め、漁協経営指導や漁業観光事業等の企画開発や販売拡大等にも貢献している。

他人種・多国籍

インバウンド対応ということで、ここ10年来、多国籍の外国人を雇用。

KPI

支援校数（時限数）

大学1校（28時限）
高校8校（16時限）
中学1校（1時限）

購入率

100%実施。

支援時間

伊良部漁協理事会、監査、経営アドバイスなどの総時間数。
年間80時間。

採用人数

6名（英国1名、仏国1名、台湾1名、米国1名、豪州2名）



03 SMS RoadMap 2026

海洋生物保護

2026年度は、これまでのサンゴ保全活動をさらに深化させ、AI技術を活用したリアルタイムの海洋生態系モニタリングを導入します。科学的データに基づき、気候変動下でのサンゴの回復力を高める具体的な施策を実行。観光客がツアーを通じて直接的に海洋生物の保護に貢献できる、参加型の保全プログラムを拡充します。

環境負荷最小化

持続可能なマネジメントシステム（SMS）の基準を一段階引き上げ、事業活動全体のカーボンニュートラル達成を目指します。移動手段の電動化促進や、サプライチェーン全体でのプラスチックフリーの徹底、廃棄物の完全循環型リサイクル体制を構築。宮古島の自然環境に与える負荷をゼロに近づける運営を追求します。

環境教育

次世代を担う子どもたちや、世界中から訪れる旅行者に向けた「探究型エコツーリズム」を強化します。単なる自然観察に留まらず、GSTCの国際基準を背景とした持続可能な社会のあり方を学ぶ場を提供。宮古島の体験が、参加者の日常生活における環境意識の変容を促すような質の高い教育コンテンツを展開します。

地域支援

「観光客が来るほど地域が豊かになる」仕組みを加速させるため、地元事業者や行政との連携をさらに密にします。伝統文化の継承支援や、地域製品のブランド化を推進。観光収益を地域の社会課題解決に充てる仕組みを構築し、住民と観光客が共に宮古島の未来を創る、真のサステナブル・アイランドの実現に貢献します。





01 サンゴ礁

宮古島の宝であるサンゴ礁を守るため、「ノータッチ・サンゴ」指導を徹底しています。物理的接触を完全に断つことでサンゴの白化や破壊を防ぎ、観光客が来るほど海が健全に保たれる再生型観光を実践しています。

02 ウミガメ

ウミガメの産卵地や餌場となる環境を保護するため、適切な観察距離の維持と生息域の保全に努めています。野生動物の生態を尊重し、過度なストレスを与えない持続可能なウォッチング・ルールを確立しています。

03 熱帯魚

豊かな海洋生態系を支える熱帯魚たちの生息環境を守るため、餌付けの禁止や水質汚染の防止を徹底しています。多様な種が共生する自然本来の姿を維持し、次世代へこの豊かな海を引き継ぐための活動を継続しています。



海洋生物保護

2026年度は、これまでのサンゴ保全活動をさらに深化させ、AI技術を活用したリアルタイムの海洋生態系モニタリングを導入します。科学的データに基づき、気候変動下でのサンゴの回復力を高める具体的な施策を実行。観光客がツアーを通じて直接的に海洋生物の保護に貢献できる、参加型の保全プログラムを拡充します。





01 モビリティ

ツアー運営や送迎における移動時の温室効果ガス削減を推進しています。低燃費車両の導入や効率的な運行ルートの策定、さらには電動モビリティの活用を検討し、移動に伴う環境負荷の最小化に努めています。

02 エネルギー

事業所および運営全般で使用するエネルギー量の把握と効率化を徹底しています。再生可能エネルギーへの転換や節電対策を強化し、前年比5%削減を目標とした持続可能なエネルギーマネジメントを実践しています。

03 廃棄物・排水

プラスチック削減や廃棄物の適正処理、機材洗浄時の節水を徹底しています。廃水の環境負荷を抑えるとともに、リユース・リサイクルの仕組みを構築し、宮古島の海を汚さない循環型の事業運営を追求しています。



環境負荷最小化

持続可能なマネジメントシステム（SMS）の基準を一段階引き上げ、事業活動全体のカーボンニュートラル達成を目指します。移動手段の電動化促進や、サプライチェーン全体でのプラスチックフリーの徹底、廃棄物の完全循環型リサイクル体制を構築。宮古島の自然環境に与える負荷をゼロに近づける運営を追求します。





01 学校教育

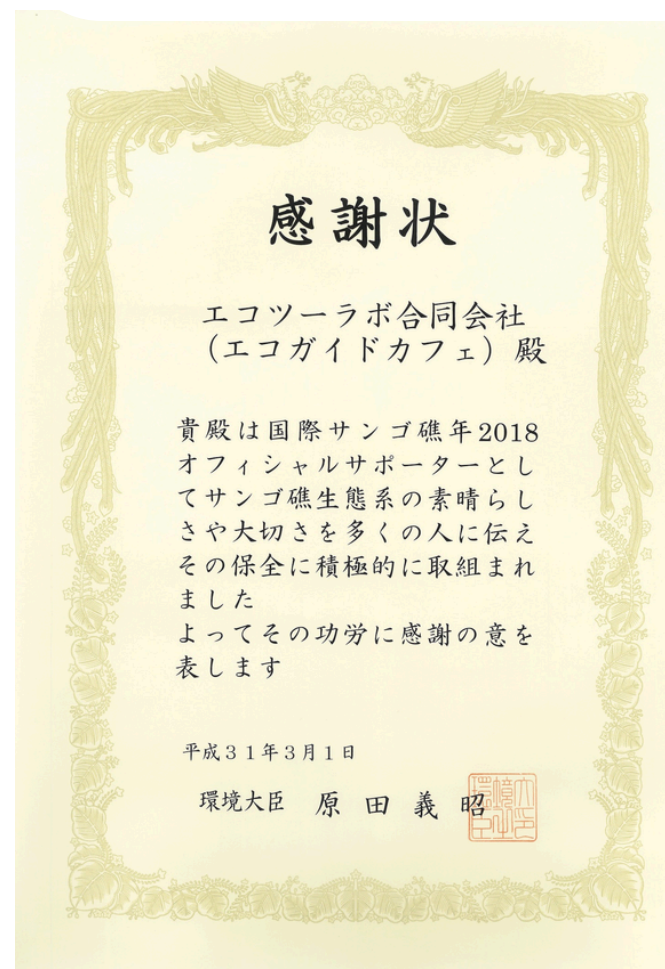
次世代を担う学生へ、宮古島の海を舞台にした探究学習を提供しています。サンゴ礁の生態や保全技術を学ぶフィールドワークを通じ、SDGsの視点から持続可能な社会のあり方を考える教育プログラムを実践しています。

02 市民教育

地域住民と共に、宮古島の自然環境を守るための意識啓発活動を行っています。ワークショップや清掃活動を通じ、観光資源である海の価値を再確認し、住民一人ひとりが保全の主体となる仕組みづくりを推進しています。

03 世界標準教育

GSTC基準に準拠したエコツーリズムのノウハウを、世界に向けて発信しています。国内外の旅行者や事業者へ「ノータッチ・サンゴ」の理念を広め、地球規模での海洋保護と持続可能な観光の両立を提唱しています。



環境教育

次世代を担う子どもたちや、世界中から訪れる旅行者に向けた「探究型エコツーリズム」を強化します。単なる自然観察に留まらず、GSTCの国際基準を背景とした持続可能な社会のあり方を学ぶ場を提供。宮古島での体験が、参加者の日常生活における環境意識の変容を促すような、質の高い教育コンテンツを展開します。





01 漁業者

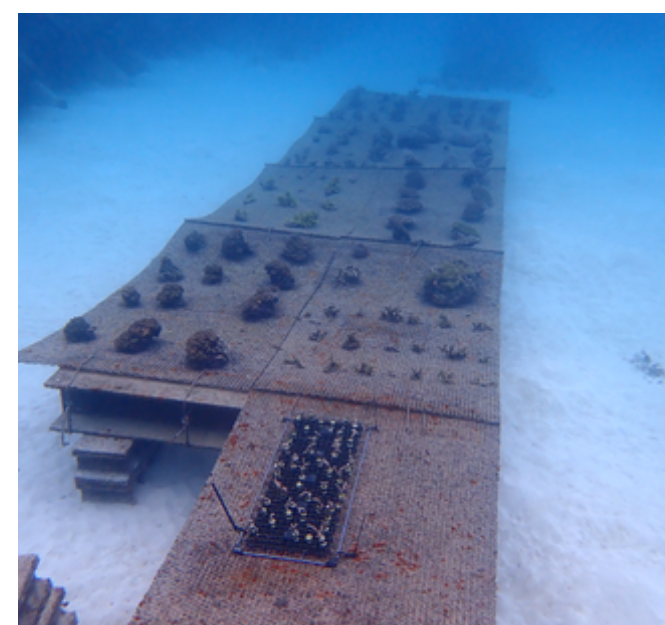
地元の漁業者と連携し、海洋資源の持続可能な利用に取り組んでいます。環境保全の重要性を共有し、サンゴ礁の回復が豊かな漁場を守ることに繋がる共生モデルを構築し、地域の一次産業を支援しています。

02 観光事業者

島内の観光事業者へサステナブルな運営ノウハウを共有しています。GSTC基準の普及を通じて、地域全体の観光品質を底上げし、宮古島が世界から選ばれる持続可能な目的地となるようリーダーシップを発揮します。

03 未来技術

AIやデジタル技術を駆使し、保全活動を効率化・可視化しています。最先端の技術を地域に還元することで、伝統的な自然保護に科学的な裏付けを与え、次世代へ繋ぐための持続可能な地域社会の基盤を創出します。



地域支援

「観光客が来るほど地域が豊かになる」仕組みを加速させるため、地元事業者や行政との連携をさらに密にします。伝統文化の継承支援や、地域産品のブランド化を推進。観光収益を地域の社会課題解決に充てる仕組みを構築し、住民と観光客が共に宮古島の未来を創る、真のサステナブル・アイランドの実現に貢献します。



THANK YOU.

宮古島でお会いしましょう

